

文芸OGネットワーク通信

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1 共立女子大学文芸メディア研究室 文芸OGネットワーク
Tel & Fax 03-3237-2681 URL www.kyoritsu-wu.ac.jp/bungei
代表 高橋京子 発行：2014.9.27

vol. 21

文芸OGネットワーク総会 BUNGEI OG NETWORK GENERAL MEETING



平成26年度文芸OGネットワーク総会が6月14日(土)に3号館204号教室で開かれた。総会は川瀬治子氏の司会で11時過ぎに始まり、昼食、懇談をはさんで、午後1時20分からは文芸サロン講座が開催された。参加者は45名であった。

《定期総会》

1. 代表の高橋京子氏より挨拶があり、各担当者から平成25年度の活動の報告があった。

会報：「OGネットワーク通信」第19号、第20号を発行した。第20号からはレイアウトを外部委託し、新たな紙面となった。

劇芸術資料整理：昨年度は活動日34日間で延べ374名の参加があり、資料整理の再点検をするとともに、俳優座ポスターのデータ入力を完了した。また、5、6月に本館で行われた劇芸術コース主催の資料展示に協力した。10月に共立祭に参加した際の企画、展示を行った。

共立祭：河竹黙阿弥を特集し、資料などを展示した。OGネットの活動の紹介パネルの展示や、バザーも行った。

在学生支援：在学生に、仕事に対する具体的なイメージを持ってもらおうと、出版関連の仕事に携わっている卒業生が、仕事の内容などについて説明した。

2. 今後の活動については、各担当者より活動を継続するとの説明があった。
3. 会計の担当者から平成25年度の収支決算の報告があり、監査から相違ないとの報告を受けた。平成26年度の予算案が示され、承認された。

《文芸サロン講座》

11回目となる文芸サロン講座は「東日本大震災と民俗文化資源」と題して、小池淳一氏(国立歴史民俗博物館教授)にご講演いただいた。講演後、活発な質疑応答が行われた。

第11回 文芸サロン講座



講師の小池淳一氏

今年も総会後にサロン講座が開催された。講師に国立歴史民俗博物館教授、小池淳一氏を迎え、「東日本大震災と民俗文化資源」という演題で行われた。

東北の震災からこの3月11日で早や3年の月日が過ぎ、復興もままならぬ現状にもかかわらず、私達の記憶から遠のいて行きつつあるのではないか。そうしたなかでの今回の講演は意義深いものがあったのではないだろうか。

小池氏は、ご自身の専門分野である民俗学を通して、復興にもかかわってこられた。永年の研究対象である東北——特に気仙沼市小々汐（こごしお）地区、通称小々汐オオイ（大本家）尾形家の調査中に起きた今回の震災を通して、文化資源をどう再生させるか、またその意義について述べられた。

民俗学とは、形あるものから、目には見えない部分までかかわりを持

ち、精神の連続性をテコにしている学問であるという視点から、文化資源をどのようにとらえ、再生させるかが課題であったとのことである。

再生目標として

- ・民俗事象をはじめとする生活文化に結びつくモノを救出する。
- ・あらゆる生活資料を対象とする。
- ・救出の過程での発見・再認識・理解につとめる。

決められたマニュアル、ルールがあるわけではないので、試行錯誤しながらの救出作業であったとのことである。

こうした作業の中から

①尾形家1810年来の「暮らしの場」としての復元

②三陸の生活の復元

という視点から数々の再発見があった。尾形家の役割は地域社会を結ぶ結節点としてのイエ→地区・同族団の行事・祭礼の舞台であり、生活文化が集約される場でもあった。

例をあげてみると、

・おしらさま——東北地方の民間信仰を代表する家の神で、毎年正月を迎える際に新しい赤い布を奉納する。

・盆棚や歳神——海山の幸をそなえる。

この地区の人々の間では、家に神仏が宿っているという信仰が生活と共にあり、脈々と受け継がれてきたこと等が理解できる。

・富山の薬箱とその記録——尾形家が集落のオオイ（大本家）の機能の一つである保健センターの役割も担っていたことがわかる。

13,000点以上に及ぶ資料の救出、整理作業を通して新しい文化資源の活用の模索が始まったとのことである。

最後に小池氏は、あの震災を忘れぬことが、震災からの復興を手助けする大切な姿勢であり、応援ですと結ばれた。

小林 豊子（S35 卒）



震災前の尾形家住宅



震災後、屋根だけが残った尾形家住宅

連載 私の学生時代 — 文芸学部で学んだ日々⑦ —

今回は、英米文学を学ばれた、7期生の鈴木道子さんに書いていただきました。



それは、今から半世紀も前のことでした。まだまだ女性の社会的地位は低く、就職する人も少なく、4年間で自分の出来る方向を見つけられれば良いのでは、と思っていました。時は安保闘争の時代、デモに参加したことが大学に分かった場合は、退学処分になるため、実際にはデモには参加せずに、神保町の喫茶店でよく友達と意見を交換したものでした。いつ消えてしまったのか分かりませんが、廃部になってしまった国際問題研究部に所属し、色々な大学と交流も出来ました。大学祭は泊り込みが許されたため、ベトナム戦争問題を担当した時は、模造紙に地図

や文章を書き、いらした方々に説明もしたようです。

私のいつもの昼食は、50円前後のラーメン類が多く、お弁当組もいました。インターネットも電子辞書もない時代でした。私は卒論にスタインベックを選んだので、原書、資料などが少なく、本屋、図書館を歩き回って資料を集めました。捨てられずに今でも家にある分厚い辞書を引いていた日々が、とてもなつかしく思えます。そのおかげで、今でも辞書をひくことになんの抵抗もありません。

今年4月から73歳にして、江東区の資料館でボランティア英語ガイ

ドとして、外国人と会話することになり、現在「健闘中」です。若い時に私がやりたかったことなのかもしれないと感じます。この英語ガイドは数年前に始まったそうです。

英語に関して、中途半端にしてしまった学生時代だったからこそ、あと何年出来るか分かりませんが、この英語ガイドに自分自身をぶつけていこうと思っています。

そして、今一度、あの学生時代にもどってみたいものと思うばかりです。

鈴木 道子 (S38 卒)

広場 — 多田久恵さん、論文発表 —

OGネットの活動のひとつ、演劇資料整理が始まってもう10年がたつ。資料整理のメンバーの一人、多田久恵さん(S45院卒)が、「演劇資料からたどる『実験劇場』の試み」と題して論文を発表した。これは共立女子大学大学院研究科の研究雑誌「KYORITSU REVIEW」第42号(平成26年2月発行)に掲載され、冊子にまとめられた。

「実験劇場」は、占領下の1949年から1950年にかけて公演された日本で初めてのプロデューサー・システム、ロングラン・システムを導入した演劇活動である。第1回『フィガロの結婚』から第7回『ヘッダガブラー』まで、7回にわたって計7作品の公演が行われた。論文中では、この「実験劇場」の構想が生まれた経緯、プロデューサー・システムの導入などについて、多くの文献も参考に考察が行われているが、特に7作品の公演に関しては、主に、資料整理室に保存されているポスター、

プログラム、ちらしなどを図版の形で掲載し、これらの演劇資料をもとに考察が進められている。

論文発表の目的の一つに、整理を続けている演劇資料の価値を学内外の方々知ってもらいたい、そして、

多くの資料が、演劇研究の参考に使われていってほしいという思いがあったとのこと。実際、資料室には第6回『ファニー』の資料など、ほかでは見られない貴重なものが保存されているという。



写真は、「ファニー」のプログラム、「フィガロの結婚」のちらし、「ヘッダガブラー」のポスター (「KYORITSU REVIEW」第42号より)

劇芸術資料室から

「資料整理に来てみない？」

この言葉をきっかけに資料整理の一員として今活動をさせていただいています。

初日の日、在学していた時にも足を踏み入れたことのない場所に向かいながら、ドキドキし、劇芸術コース出身ではない私にお手伝い出来ることはあるのかと緊張したことを覚えています。いざお手伝いを始めてみると、明るく元気な先輩方ばかりで温かく迎えていただいたことがとても嬉しかったです。

私が思う資料整理の魅力は大きく

二つあると思います。一つ目は実際のチラシやパンフレット等、貴重な資料を実際に目にする事が出来ること。そして、二つ目は先輩方の会話。劇芸術・芸能界・大相撲・お店など、ここでは書ききれないほどの沢山のお話を伺うことが出来ます。耳を傾けながらの作業は、あっという間に時間が過ぎてしまい、知識はもちろん先輩方からパワーをいただいている気がします。

最近では資料整理後に、今年度学園祭の展示である近松門左衛門について詳しく教えていただきました。教

えていただくだけではなく、十月の学園祭当日までに知識を深めていきたいと思っています。

萱沼 あずさ (H24 卒)



在学生支援



**在学生とOGネットのコラボ企画第1弾！
オープンキャンパス用の冊子
『We♡共立』が発行されました**

このたび、オープンキャンパスに来校する高校生に向けた、大学公認PR誌『We♡共立』の制作にOGネットが編集業務でサポートさせていただきました。

家政学部被服学科3年・白石朱音さん(編集長)、文芸学部日文コース3年・志田紗奈子さん(副編集長)を中心とした、在学生の編集チームとOGネット(窪田智子・高橋京子)のコラボによる冊子、第1号が完成。

入試事務室の寛大なご理解と学生さんたちの熱い情熱によって紡ぎ出された“共立愛”あふれる一冊となりました。8月2日のオープンキャンパスより、共立を目指す高校生たちの手に渡っています。

*今回から「在学生支援」と名称を変更しました。大学では、「在校生」ではなく、「在学生」で統一しているため、OGネットも添わせていただくことに致しました。



掲示板

INFORMATION

共立祭参加

日時： 10月18日(土)、19日(日)
会場： 共立女子大学3号館 402号室
展示： 「近松門左衛門 元禄の演劇の背景」
ぜひお出かけください！

*会場では、バザーも開催します。バザーの品をご提供くださる方は、当日直接会場にお持ちください。

編集後記

EDITOR'S NOTE

震災の記憶が薄れていく中で、貴重な文化資源の復元、そして保護にご尽力されている小池先生のご講演に感銘を受けました。紙面を通して、そのことが皆様にも伝われば幸いです。

今回、素晴らしい原稿をお寄せ下さった皆様、ありがとうございました。(O)